

よ読んでみよう 解いてみよう
さん太のワークシート

白壁の町並みで知られる府中市上下町で、地域住民が対応する外国人観光客向けツアーが人気を集めています。記事を読み質問に答えましょう。

てい がく ねん
**低学年も
 チャレンジ!**

Q1

第1段落（リード）を見ると、好評の秘密は「漂う歴史情緒」や「住民との密な交流」とあります。みんなの住むまちで、外国の人に人気が出そうな場所やイベントを探してみてください。

Q2

ツアーでは、地元クラブによる剣道体験も楽しめます。参加者は具体的にどんな体験をしていますか。第3段落を参考に30字以内にまとめましょう。

Q3

ツアー1回の定員は14人で、来年は16回行う予定です。毎回定員がいっぱいになれば、何人が来ることになりますか。計算してみよう。



外国人観光客に英語でガイドをする上下中生徒たち
 = 7月、府中市上下歴史文化資料館

(地面美里)

府中・上下に訪日客続々

通訳ガイド、剣道体験 住民の対応人気

白壁の町並みで知られる府中市上下町で、地域住民が対応する外国人観光客向けツアーが人気を集めている。新型コロナウィルス禍で一時的に交流が好評で、今年は予約を含め満員となっており、来年はツアー回数を16回に倍増させる計画だ。

来年はツアー倍増計画

観光振興に取り組み一般社団法人・天領上下まちづくりの会（旧上下まちづくり協議会）が2016年から、英旅行代理店によるツアーの受け入れを始めた。年に8回、京都や大阪など2週間の国内旅行中、半日の日程で、白壁が美しく生活感のある上下町商店街（府中市上下町上下）や大正末期建築の芝居小屋「翁座」（同所）といった主要スポットを巡る。通訳は住民ボランティアが担い、上下中生徒が英語で町並み散策のガイドを務める。地元クラブによる剣道体験もあり、欧米を中心とした参加者は師範や少年剣士らに教わって竹刀で技を打ち込んだり、手ぬぐいを頭に巻いたりして日本の伝統文化を楽しんでいる。

まちづくりの会によると、コロナ禍前の19年には計約100人が参加したが、20年以降はほぼ休止となった。昨年10月から再開し、今年は予約を含め1回14人の定員が埋まる盛況ぶりという。

来年からはツアーを倍の16回に増やし、さらなる集客を狙う。同会の守本裕子理事は「ツアーが評判を呼び、最近外国の個人客も町で見かける。子どもたちの英語学習にも役立っており、町の活気につなげていきたい」と語る。

2023年9月23日付、エリア広域面

過去の問題は
 こちらから▶▶



◇「さん太のワークシート」は自由にダウンロードして、学校や家庭での学習に活用してください。